

**誤解⑤：**

**すぐに訴えないのは合  
意だったから**

→

**事実：**

**恥ずかしくて誰にも言  
えなかったから**

被害直後にすぐに警察や病院に駆け込めば、証拠も採取しやすく、加害者もすぐに逮捕できるのに、すぐに訴えなかったために証拠も失われたり、捜査も難しくなってしまうと思われるかもしれません。本当は嫌ではなかったのに、誰かに誘導されて、また自分の身内に自らの身の潔白を明らかにするために後になって訴えたのではないかと疑われることもあるかもしれません。

性犯罪の被害者はなかなか訴えることができません。内閣府の調査でも62.6%の人が「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答しています。その理由は、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が42.9%と最も多くあげられ、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっているとと思ったから」（29.9%）、「そのことについて思い出したくなかったから」（29.9%）、「相談してもむだだと思ったから」（27.3%）、などとなっています。被害を受けて「恥ずかしい」と思わせているのは社会です。被害者の感情に配慮できる社会や緊急対応がないなかで、被害を訴えてきた被害者に対しては、それだけ強い被害感情があるのだと理解する必要があります。

また、被害者はあまりにもショックな出来事を受け止めきれずに「なかったことにしよう」と思うこともあります。これは心理学的には「否認」といわれる状態です。そして被害者はそれまでと同じ日常生活を続けている場合もよくあります。そんなにひどい目にあったのに、なぜそんな普通に行動できるのか疑問に思われるかもしれませんが、被害者の行動としてはよくあることなのです。

